香美市文芸

風の流れ

【短歌】

楠瀬　兵五郎　選

我子さえいろはを知らぬ世となりぬ惜しき大和の古きことの葉　韮生　灯

奥山は天災受けて去年まで渡りたる橋跡形もなし　小松　敏子

高齢者講習車を乗り終えておんちゃん上等と言はれて降りる　小松　隆之

幾種類薬呑む身の風邪に臥す今宵は手薬煎じてみよう　岡田美代子

クリニックは休日あけの人いきれ「富弘」の詩画に元気をもらふ　大岸由起子

畑主のいかにいますや人参は間引かれぬまま草のはびこる　小原　子川

佳き短歌に学びしものは只一つ写実に潜む普遍の世界　森本　幸美

根須の屋根やね白々と大栃の北の山襞かすみて見えず　門脇　千代

送電の鉄塔三基あの山を越せば杉田の吾が家がある　門田　喜美

我が生けし正月花ははなやげり南天菊と色どりもよく　鍵山　春子

著膨れて薬をもらう診療所医師は白衣の半袖にして　西尾　玉喜

春の灯を数へつつ立つ夕まぐれ人恋しさのふいに募れり　山崎　貴子

明けましておめでとう病み妻と交す挨拶寝台に松　高野　和一

金毘羅に孫の合格祈願せし銀波かがやき昇り竜となる　谷内　務

「おい、こら」と呼ばれて過ぎし才月よ大事に生きよう余す命を　公文　千恵

わが庭に囀りもなく今朝の霜雪降りしかと見紛うばかり　吉本　悦子

病にてみどりの家に来て十八年友にあいたし故郷なつかし　岡村　和躬

汚染なき土地に住まひて思ひみる一家の団らん奪はれし人ら　武内　弘子

四十年前の教え子からの電話あり「テレビに出る」と声弾ませて　門田　明子

差し向かひ屠蘇くみ交はすもいつまでぞ健やかなれかし口には出さね　公文　正子

白き朝寒さで弱る草花に芽ぶきねがいて声をかけやる　小松　禮子

世の中についてゆくのが難しく心にも杖のほしいこの頃　高橋　章

あたたかき雑煮の膳の並ぶ朝この平穏の悠久にあれ　出原　久子

あらたまの年の始めの暁に天地穏やかなるを祈りぬ　古川　安子

菜の花を一輪挿して玄関に置けばほのぼの初春の色　松中　賀代

雨の日も登校の子らを見守りぬ黄色い服の市議のおじさん　大石　綏子

ゆく年の柿の実多き年の暮れ南天の実も赤くかがやく　林田　幸子

幸せでありしか母は冬晴れの空に門川の水音ひびく　竹村　咲子

移り来て交流続くる友ひとり皇帝ダリアの咲きたるメール　林　敏子

降る雨はテラス濡らして肌寒し砂糖シュワシュワ溶けゐるコーヒー　都築　初代

枕辺に人形置きて寝入る子は人形の様なまだ三才児　伊藤　清子

同室の婦人は我の同級生の母なり母と会話はずみおり　佐々木真里

我も見し鰐の養殖世界一タイの洪水いつまで続く　宮地　亀好

小さき厠の中に坐るたび香りつきトイレットペーパーの小花かわゆき　山崎　緑

吾が好みの山茶花日ごと花ひらきその紅を人もたたふる　横田直加子

小春日に男の孫と芋掘りおれば紺碧の空の飛行機を指す　楮佐古きよ

みかんの種庭にまけども一羽だに姿を見せず不思議でならぬ　古谷　由美

ひとりバスに横浜ベイブリッジ過ぎ行けり幾たびか来て慣るるにもなく　佐竹　玲子

雨の川を低くとびたち鈍色の葦の穂陰にひそむ青さぎ　小松もとみ

ベランダの灰に足跡残したり噴煙やまず桜島の宿　竹村　稔実

保険証は後期高齢者とぶやうに月日すぎさる大切な日々　大石紗智子

冬木見しのみの三春の滝桜花の姿はほしいままなり　楠瀬兵五郎

今回で楠瀬兵五郎先生が『風の流れ』の選者を勇退されます。長年にわたりありがとうございました。

※俳句・短歌の応募は、総務課内広報委員会事務局まで。投稿方法は自由です。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係

〒782－8501（住所記載不要）　FAX 53－5958

図書館だより

市立図書館

休館日のお知らせ

蔵書点検・図書整理等を行うため休館します。

【臨時休館日】

3月5日（月）香北分館

3月6日（火）～3月8日（木）本館

3月9日（金）物部分館

「子ども司書」養成講座

市教育委員会の主催で実施した「子ども司書」養成講座が終了しました。受講生19人は、本当によくがんばりました。レポートの一部を紹介します。

◇　◇　◇

「子ども司書」講座を終えて

大宮小6年　山本さやか

これから絶対役に立つ、研修日誌を見返してそう思った。この研修でたくさんの本や、子ども司書について学んできた。

基礎研修では、多くの人に本との出会いを大切にしてもらいたいと思った。

実技・実地研修は、学校でしている本にかかわる活動を実際にした。図書館の業務をやってみたら思った以上に大変だったが「ありがとうございました」と言うと笑顔で返事をしてくれたので、本は人をつなげてくれる力を持っているのではと思った。

私は、学校で読み聞かせをするとき「どうして本はあるんだろう」とふと考えた。そして自分なりの答えを出した。それは「本は人を楽しませたり、学ぶ力をつけたりする道」。この意味は、学んだら一つ進む、また進む、というように本は無限に続く道、そう私は思ったからだ。

私たちが読み聞かせをすると、だれか一人はやってみたいという人がいると思う。そんな人を増やし、本の力を広めたいと思った。

最後の専門研修では、図書館の役割や、子ども司書は何ができるかを学んだ。担当の方が「インターネットやテレビで十分だと勘違いしているのでは？」と言っていた。その言葉は私にも当てはまっていた。でも、これを聞き、テレビやインターネットでは足りない。本があれば正確なことが学べると思えた。

中学校の読書活動では、おすすめの本を紹介する活動や、図書館だよりの発行などの話があった。私が、一番自分の学校でしたいと思ったのは、図書委員が問題を作り廊下に掲示する読書楽力検定を自分たちで考えることだ。また、今までやってきて強く感じたことは、私たちみたいに本にかかわる活動をする人たちが増えるためにどうすればいいのだろうということだ。私たちが本の楽しさを伝えなければいけないと強く思った。そのために今の私たちにできること、それは今まで「子ども司書」養成講座で勉強してきたことを多くの人に伝えていく。これからが本番だ。

おすすめの1冊

物心ついたころから家族がいなかった主人公サーヤは、養護施設で育った。

ある時、双子の弟という少年・レイヤと出会い、自分が不思議な力を使う「マテリアル」だと知る。

悪魔との戦いで深めていく友情や絆、運命に振り回される切ない恋心。

読んでいて、わくわくドキドキの楽しいシリーズは、小学5、6年生におすすめです。

まゆちゃん（土佐山田町）

「魔天使マテリアル」

（作：藤咲あゆな）

（画：藤丘ようこ）

吉井勇記念館だより

季節の展示のお知らせ

吉井勇記念館では、現在、季節の展示「春」を開催中です。

「春」にちなんだ勇の作品を展示しております。ぜひご来館ください。

【期間】5月28日（月）まで

記念館からのお願い

吉井勇記念館では、今年開館10周年を迎えるにあたり、勇の隠棲の地である香北町猪野々に関する企画展を計画しています。

勇の作品をお持ちの方や当時の逸話等、どんな情報でも、ご存じの方はご一報のほど、よろしくお願いします。

【問い合わせ先】吉井勇記念館☎58・2220